# 外交官の夢から医師になることを決断
# 総合診療と在宅医療で地域に貢献する

DOCTOR closeup

## 亀田病院診療部長
## 清水　平

今年4月亀田病院の診療部長に就任したのが日高管内平取町出身の清水平医師だ。高校時代の将来の夢は外交官。夢を実現させるために東大法学部へ進学したが、「外交官ではなく、医者になることを決断しました。その理由の一つは小学生のとき、苫小牧の病院に入院した際に感じた『へき地医療』の問題で、自分の性分にも合っていると感じたからです」

北大医学部へ進学。卒業後は在沖縄米国海軍病院へ勤務する。同病院は米国外では最大規模の海軍病院で米軍関係者とその家族のための医療を提供。インターシッププログラムは日本の医学部を卒業した日本人医師に米国式の医学教育や医療を経験できる。「患者のカルテを渡されてすぐに診察。その結果を指導医の前でプレゼンしますが、非常に細かい部分までチェックされます。3カ月で診療の英語の自信はつきましたが、精神的にも肉体的にもクタクタの毎日でした」

医師としての基礎を沖縄で学んだあとは、手稲渓仁会病院で家庭医療、そして静明館診療所で在宅での終末期医療の経験を積み重ねた。また地域の基幹病院である静内病院では急性期医療を中心に地域に貢献した。

2017年函館中央病院の内科科長に就任し、内科と総合診療科を担当する。「医療機関を受診しても診断のつかない患者さんの駆け込み寺のような存在でした。不明熱など多くの症例を経験するなど急性期病院で臨床能力を高めることができました」。22年函館稜北病院に勤務。内科と訪問診療科に所属した。「1年間という短い期間でしたが、プライマリーケアを学び直すことが目的でした」

清水医師はこれまでやってきたことを生かせる場所を希望していた。「私1人分の1馬力の還元度が高いところは亀田病院だと考えました」。同病院では内科と総合診療科、訪問診療を担当する。「現在は2週間に1回施設を訪問していますが、在宅医療にもチームを組んで取り組みます。慢性期の医療は患者さんのその後の生活にどう繋げるかに重点が移っています。そのためには上乗せする医療ではなく、本当に必要な医療を提供していきます」

しみず　ひとし
1997年東京大学法学部第二類卒業。
2005年北海道大学医学部卒業。在沖縄米国海軍病院、手稲渓仁会病院、明館診療所、静仁会静内病院（現日高徳洲会病院）、函館中央病院内科科長、道南勤医協函館陵北病院を経て、2023年亀田病院診療部長に就任。
日本プライマリ・ケア連合学会認定指導医
日本専門医機構総合診療特任指導医